

【生薬名】半夏(ハンゲ) *PINELLIAE TUBER*

【起源植物】カラスビシャク *Pinellia ternata*



【科名】サトイモ科 *Araceae*

【別名】へそくり、半夏一名地文一名水玉(神農本草経)

【薬用部分】球状の塊茎

【主成分】 β シトステロール、制吐成分セレブロシド、フェノール類、アルカロイド(エフェドリン)、アミノ酸、蔞酸カルシウム

【薬性】気味は辛温、有毒、帰経は脾胃に属す

【効能】●和胃止嘔・燥湿祛痰・散結消腫

●嘔吐、悪阻、咳痰、利尿、鎮静

●1日3~10g、十円位のひね生姜を4~5枚加える

●嘔吐を鎮める作用が強く小半夏加茯苓湯は妊婦の悪阻に頻用

●体内の余分な水分(湿)による咳や薄い痰を取り除く、この湿を利尿作用として取り除くこともある

●半夏を口に含むと喉に強烈な刺激がある、この刺激は生姜によって緩和される。処方内で半夏と生姜はペアでの配合が多い

●漢方で不可欠の生薬で水分の停滞、代謝障害、嘔吐に頻用する

●軽度に眼圧を低下させる

●半夏は単味で使うことはまずない

【出典】●主治痰飲嘔吐也。旁治心痛。逆満。咽中痛。咳。悸。腹中雷鳴。(薬徴)

●治傷寒寒熱。心下堅。下氣。喉咽腫痛。頭眩胸脹。欬逆腸鳴。止汗。(神農本草経中品)

●半夏 味辛、脾を健にし、湿を燥かし、痰厥、頭疼、嗽嘔を堪入す。(薬性歌)

【備考】●オオハンゲの塊茎も半夏として使う

●六陳の一つ

【処方例】●半夏瀉心湯、小半夏加茯苓湯、越婢加半夏湯、小柴胡湯